

講義コード	511100502	
講義名	英語Ⅰ ABC	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	前期	
基準単位数	1	
時間	0.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	4時限	
科目分類名		
科目分野名		
対象学部・年次		
必須/選択		
担当教員		
職種	氏名	所属
非常勤教員	上野 文江	女子短期大学部
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

日本社会のグローバル化とともに、保育の現場においても英語教育の必要性が高まっている。本授業では、最初に各Unitの本文読解を行い、その後それに関連した問題演習を行う。また、英語を使った様々な活動（歌、身体活動、季節の行事など）を取り入れ、保育の現場に活かせるようにする。

授業の到達目標及びテーマ

- ①基礎的な英語の知識・技能を高める。
- ②世界のさまざまな題材を通して、広い視野から物事を考えることができるようになる。

授業計画表

回	内容
第1回	オリエンテーション (学びの目標、学習の進め方、レポートの書き方、その他)
第2回	Unit 1 Olympic Cities オリンピック開催都市について学ぶ
第3回	Unit 2 Internet Communities インターネット社会について考える
第4回	Unit 3 Console Gaming テレビゲームの変遷について知る
第5回	Unit 1～3の復習とまとめ、及びレポートの作成
第6回	Unit 4 Teleworking テレワークについて考える
第7回	Unit 5 Graffiti グラフィティについて考える
第8回	Unit 6 E-books 電子書籍の変遷と発展について知る
第9回	Unit 4～6の復習とまとめ、及びレポートの作成
第10回	Unit 7 Multiculturalism 多文化共存社会について考える
第11回	Unit 8 Space Tourism 宇宙旅行の歴史と今後について知る
第12回	Unit 9 Cultural Taboos 文化的タブーについて知る
第13回	Unit 10 Volunteering ボランティア活動について考える
第14回	Unit 7～10の復習とまとめ、及びレポートの作成
第15回	理解困難な箇所の復習、試験の対策・準備、レポートの提出

授業時間外の学修

- 〔予習〕次時に学習するUnitを以下のように事前学習することを求める。
- ・辞書等を活用して、本文の内容のアウトラインを理解しておく。

- ・付属のCDを利用して、本文の英語を聴いておく。
- ・各Unitの演習問題を解いておく。

〔復習〕 授業内容の復習と定着、また題材に対する自分の考えをまとめるために、以下の学習をすることを求める。

- ・付属のCDを利用して、各UnitのListening問題に取り組む。
- ・題材の内容についての自分の感想や意見を、レポートとしてまとめる。

(毎回の学習時間の目安は、1時間程度とする。)

実務経験の有無

実務経験のある教員が担当する 例：企業団体の実務経験者・税理士・学校現場教員経験者・カウンセラー等

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
		○	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
教科書や授業の課題の理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を超えた自主的な学修が行っていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行っていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
発音・読み方等	沈黙や言い直しが全くなく、正しい発音でスムーズに読むことができる	沈黙や言い直しがあまりなく、正しい発音でスムーズに読むことができる	沈黙や言い直しは時々あるが、ある程度正しい発音で読むことができる	沈黙や言い直しは多々ある。また、正しい発音で読むことが難しいため、教員と一緒に読んでいる
言葉での表現力	正しく読みやすい言葉で表現されており、スムーズに内容を把握することができる。また、文法的にも正しく表現できている	読みやすい言葉で表現されており、ある程度内容を把握することができる。また、文法的にもほぼ正しく表現できている	表現された文章についてはある程度内容を把握することができる。しかし、文法的な誤りが多少ある	表現された文章については内容を把握することは難しい。また、文法的な誤りが多々あるため指導を適宜している
レポート力 (復習も含む)	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使ってレポートを作成している	与えられたテーマについて、授業で紹介した方法を使ってレポートを作成している	与えられたテーマにある程度沿って、授業で紹介した方法を使ってレポートを作成している	与えられたテーマに沿ったレポートになっていないため、教員が添削等の支援をしている

成績評価法 (表形式)

評価基

	準	備考
定期試験	70%	期末試験への取り組み方、期末試験の結果（理解度と定着度）
小テスト等		
成果発表		
授業への貢献度	10%	予習・復習の状況、授業への取り組み方、など
レポート	20%	各Unitのレポートの感想や意見・考察が、授業内容や自分の身近なことに絡めて書かれていること
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する	授業の中で解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

チャット

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30~60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

	書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
選 用 用	発問の吟味・精 コメントシートの活 小テストや授業内レポートの活		授業後レポート

教科書

“ Reading Pass 1 (Second Edition) ” Andrew E. Bennett 著 （南雲堂）

参考書

授業に臨む際は、必ず英和辞書（電子辞書も可、スマホの辞書機能は不可）を携行すること

SDGsとの関連

に う に	4. 質の高い教育をみんな 10. 人や国の不平等をなくそ 16. 平和と公正をすべての人
-------------	---

特記事項等**科目のナンバリング**

LIL1101

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 216号 非常勤講師控室（木曜日のみ）

電話番号

090-7172-9527

授業用E-mailfumie_ueno@sakushin-u.ac.jp